

第16回ゴミパイプライン協議会

会議名	:ゴミパイプライン協議会
開催日時	:2018年1月13日(土) 10:00~12:00
場所	:芦屋市環境処理センター会議室
参加者	
利用者の会より	:山口委員長、長谷委員、春木委員
市より	:北川部長、森田課長、藪田主幹、尾川係長(司会進行)、林パイプライン担当
傍聴者	:13名

○市 定刻になりましたので、第16回ゴミパイプライン協議会を始めさせていただきたいと思いをします。

きょうの司会は、友田さんが欠席のため、環境施設課の尾川が務めさせていただきます。よろしくをお願いします。

まず、連絡事項ですが、長谷委員が30分ほど遅れると連絡を受けております。

資料の確認です。まず、第16回ゴミパイプライン協議会次第で1枚ものがあります。配付資料としまして、資料1パイプライン運転報告、資料2経費削減取り組みの検証について、資料3パイプライン施設の多角的連絡体制づくり、資料4運転方法の変更について、資料5説明会の報告、資料6市の考え。こういう形になっておりますけれども、過不足ある方、いらっしゃいますでしょうか。

それでは、次第に沿いまして進行させていただきます。

まず議題1、パイプラインの運転報告について、資料1となります。環境施設課の林から説明させていただきます。

○市 おはようございます。芦屋市の林です。

資料1として、毎月、報告させていただいております、月例のパイプラインの運転報告をさせていただきます。

期間に関しましては、12月は報告していませんでしたので、11月21日～1月10日までの記録を資料1としてあらわしております。

まず、表面がシステム異常の発報対応、裏面に利用者からの連絡対応、その下が、巡回及び点検で見えられた不具合点等について記載させていただいております。

まず、表面のシステム異常発報について説明させていただきます。量が多いので、ある程度、抜粋して報告させていただきます。

この2カ月間に関しましては、全件で21件ございました。備考に書かせていただいているんですが、時間外対応がこの2カ月間は多かったなという印象がありまして、21件中9件、42%が朝の定時運転中に対応しております。また、作業内容につきましてはモニターでの確認、実際、現場に行かずに対応した割合が21件中10件、47%。また、実際、現場に行ったのが同様に21件中10件、47%発生しております。

今月、今までなかった事例としまして、12月18日月曜日16時38分、夕方、潮見中学校のところですけど、ごみぶら下がり。ごみを入れ過ぎてぶら下がったという事例が、18日と1月4日7時59分の2件ございました。余りごみを入れ過ぎるとレベル計の上まで来て、こういった事例が起きますので、御注意ください。

件数といたしましては、1番下の星印に、平成27年、平成28年、今年の29年と比較しております。件数的には毎年変わらずといった形で、22件、26件、21件となっております。

続きまして、裏面のほうをごらんください。

利用者からの連絡対応といたしまして、この2カ月間は4件発生しておりました。今回、4件中2件に関しましては誤投入がございました。1件は財布、もう1件は車の鍵を誤投入されております。こちらに関しましては、両方とも下の貯留槽及び貯留ドラムで、運転業務の方が行かれまして、取り出して、市民の方に手渡しております。

件数にいたしましては、ここ2年比較をして、すごく少ない結果となりました。平成27年が19件、平成28年が20件、今年が4件となっております。

その下が巡回及び点検で発見された不具合点。こちらに関しましては、11月27日ですが、浜風町にあるI-G-1という点検口で発生した事例です。一時閉塞が発生しまして、こちらに関しましては何度か通気運転を行いまして、閉塞が解消されております。

その下の1月5日金曜日に関しましては、若葉町の投入口番号8059。こちらはピット内の穴あきが発生しましたので、補修予定と書いているんですけども、現在は補修が済んでいます。

資料1とは別ですが、きのう発生をしました閉塞がありますので、その説明をさせていただきます。

投入口を今は停止しております。内容については芦屋市のホームページでも記載をさせていただきます。閉塞している箇所が赤丸になります。拡大をいたします

と、新浜町のラ・ヴェールマンション敷地内の投入口の1つが閉塞しております。きのう、復旧作業をしていたんですが、こちらのI-G-2-1の点検口及びI-G-2-2の点検口から、どういう状況かを確認した写真をあらわしております。

I-G-2-1の点検口下で、投入口の輸送管の幅は50センチですけど、多いところで35センチの幅でゴミが堆積しておりました。ゴミ質に関しては土が多いなという印象がありました。

もう1個の点検口I-G-2-2を拡大すると、この奥が下の写真になるんですが、ゴミで閉塞している状態になっております。点検口から取れる範囲のゴミを取って、通気運転等を行っていたんですけど、閉塞は復旧しなかったです。また来週から復旧作業を行いますので、まだ少し時間がかかるかなと印象を受けております。

対応といたしましても、マンション内の1つの投入口だけ停止しておりますので、このマンションの方にお住まいいただいている方には、ほかの投入口を使っていただく形でお願いしたいと思っております。

資料1といたしまして、報告は以上とさせていただきます。

○市 議題1に関しまして、何かございますでしょうか。

○利用者の会 利用者の会の山口です。寒い中、御苦労さまです。

いただいた資料の12月18日と4日は、確認ですけど、利用者の方がゴミをいっぱい入れ過ぎたことで詰まったということですか。

○市 そうです。

○利用者の会 そこをもうちょっと詳しく説明。というのが、それによって利用者に対する注意喚起というか、そういうのをしないといけないので。

○市 このバケット、ぶら下がりがどういったことで起きるかと言いますと、例えばゴミをバケットから入れる際に、下の貯留槽でレベル計がありまして、そのレベル計より上に行きますと満タン表示になります。そうするとバケットはロックされるんですが、バケットにゴミを入れたときに完全に閉めずに開けますと、ゴミだけ中に入ってしまった、バケットはあいたままという状態が続きます。そうするとレベル計の上までゴミがどんどんたまってしまって、バケットが閉まりきらない。

○市 毎回、ゴミを1個入れます、ばちゃっと閉めます。もう1回、あけます、入れます。満杯になったらレベル計が、赤外線がオンしまして、開かなくなるんです。これを行ったかどうかわからないですけども、裏ワザみたいな形で、閉めずに勢いよく押す

ことによって、ごみだけがぼんと落ちます。閉めてないので、そこで赤ランプでロックしないです。

それをやっていると、例えば手持ちのごみは全部処理できるかもしれませんが、レベルよりも大分上になってしまっている。実際、引いたときに、本当であれば赤ランプで入らないような状態であれば、バケットよりも大分下ですけれども、上まで来てしまっている。そうすると、引いてもバケットの端っこにひっかかって、どうしてもぶら下がった状態で残っている。引いたとしても、そのまま赤ランプになってしまっている。

実際、下は空で、1番上だけごみがぶら下がっているんですが、センサーとしてはオンになってしまってますので、それで作業員が行って、横からあけて、ぶら下がったごみを除去して、下に落とすなり、持って帰る形になってしまいます。そういう対応がごみのぶら下がりという形になっております。

○傍聴者 ばちゃんと閉めてとおっしゃいましたけれども、普通、私ども、ただ単にばちゃんと閉めてますけど、さっき、おっしゃったのは鍵をちゃんと閉めてという意味ですか、どういう意味ですか。

○市 バケットを閉めてということです。バケットを「がしゃっ」と定位置まで行くのではなくて、寸前でとめるんです。ぎりぎりのところでとめると、ごみは落ちます。

○利用者の会 わからんな。ちょっと質問させて。よろしいですか、山口さん。

私ら民間なんかでは、この辺の構造機能を現に、これもよく扱うと言ったらおかしいけど、勉強して、それがどうして起こるかということ。

これまで私がごっつい多いなと思って気にしとったのが、投入口から貯留槽までの配管の中で、例えば段ボールをぐしゃぐしゃとやって、ぽっと入れたら落ちるまでの間にぽっと広がって。広がっているから、満杯ではないからずっと青です。こういう状態でさらに次の人が入れていくと、どんどんどん配管の上にたまってきて、最終的には投入口からものが入らない。だけど、貯留槽はまだ満杯じゃないから青ランプのままだというのが、これまで多かったと思うんやけど。

今回のそうではなくて、普通、1個入れたら投入口を閉めますわね。また、あけて、入れて、この繰り返しになろうと思うんやけど。今、言うてるのは、投入口で完全に閉め切らんうちにまた次のを入れてという動作を繰り返しているうちに、この投入口のここにもものがひっかかって、そこに入れてということですか。具体的なやつがよく

わからない。

○市 基本的に満杯という表示は、ある一定のレベルのところをオンするかどうか、ごみがそこより上にあるかどうか。さっき、春木さんがおっしゃってるように、段ボールが広がってしまって、そこから成長して行って、オンしてしまう、もちろんそれもあります。

ただ、ぶら下がり、例えば段ボールがひっかかって、その上にどんどん乗って行ってとなったら投入できなくなる。赤なんで、鍵を幾らやってもあかなくなるんです。要するに、引いたときに段ボールが飛びさえすれば解消できるんです。

ぶら下がりが起きるといことは、レベルよりも上にごみがある状態。段ボールが途中で膨らんでいたらすぐに満杯、大してごみが入ってないのに赤ランプになってしまうのは確かですけど、そのときは投入できないので、ぶら下がることはまずないかなというところですよ。

バケットのところまでひっかかるぐらいまでごみが来るといのは、赤ランプになってからも投入しているような状態。レベルを超えても投入しているような状態になります。それができる方法としましては、基本的にはレベルを超えると投入できなくなる。あかなくなるので、鍵を幾ら入れても。投入できないはずなんで、そこまで行かないはずですよ。機械的にそのレベルを超えたら、もちろん赤ランプになりますけれども、閉めてなければ開くんです。

微妙な技術があるのかわからないですが、毎回「ばしゃん」と閉めて、満杯になってしまったら、開かへんわとなるんですが、それを完全に閉め切らずに、次あけて、また放り込んでということをやっていると、赤ランプになっているけれども、開くような状況に。要するに自分の持っているものを全部、出せるような状態になるんです。

○利用者の会 貯留排出機に当然満杯ですよという、ある位置に満杯というセンサーがついてます。今、言うてるのは、投入口を完全に閉め切らずに、こうこう繰り返したら赤ランプでも投入できます。そしたら、投入口を完全に閉め切らずに「ばっばっば」入れて、そのうちにこうなったと。そしたら、赤ランプがついて以降に、特定の人が多量のごみをぱんぱか入れて、最後にここまで来たということですか。

○市 そうです。

○利用者の会 特定の人じゃないとできないですわね。普通、投入が終わったら、「かちゅん」と閉めて、鍵を持って帰って、次の人がとなるんやけども、完全に閉め切らず

に、これを繰り返すということは、特定の人が、本当に満杯がついてるのに、なおかつここまでの多量のごみを、その特定の人が入れていったということになると思うんやけどね。そういうことを言ってるんですか。

○市 そうです。

○利用者の会 そういうこと。その辺をしっかりとってほしいです。

ということは、普通、住民の人が、そんな満杯信号から、そこまでのごみは、どんだけの容積のことを言われてるんですか。ものすごい容積でしょう。そこを具体的に、構造機能の原理から言ってほしいです。満杯信号がついて以降、そこまでの上というたら、本当に多量なごみなんですよ。

○市 ぎりぎりやった場合もありますので、もう少しで赤ランプになるときに、どんどん入れて。

○利用者の会 それだけの多量のごみを特定の人が入れられたと想像しますと、そこを言ってもらわんと。利用者の会にしても、どういう対策を立てるかは難しいと思うんです。特定の人が入れておられる間に満杯がついても、なおかつ完全に閉め切らんと「ぼっぼっぼ」繰り返して、そのうちになったということ言ってるんですか。

○市 皆さんが使っておられる投入口の横をあけると、その中腹から下部にかけてセンサーがあります。容量としまして、そのセンサーからバケットまでの距離はそんなにはないです。

○利用者の会 そんなにって、具体的には。

○市 1メートルもないような状況なので、例えば3つぐらい放り込めば、そのままバケットのところにひっかかるような形になると思います。

○利用者の会 それはおかしいと思うねん。地面から投入口までの高さ、なおかつ地面から中の貯留排出機までのセンサーの間。

○市 センサー自身が投入口の部分にあります。筒の部分にあります。

○利用者の会 地面から上にあるということ。

○市 そうです。だから投入口の部分にあります。

○利用者の会 ここで議論しててもあれやけど。

○傍聴者 グループAで話をしたらいいと思いますけれども、論理的にははっきりと、今のパイプラインの投入口の問題があるわけです。だから、それを改造したらいいわけで。開いて閉じるときの角度が60度ぐらいのを55度までやって、それでやったら続け

れる。投入口をもう少し減らしたら向こうに行かれへんから、そこの工夫が、ちょっと構造上、変えたらいいわけです。お金がかかることやから、それをすべきかどうかはわからないけど、これは使用者側の問題じゃなくて、つくったところの問題やと思いますけど。

○傍聴者 最近、起こり出したわけ。

○傍聴者 いや、昔からある。

○利用者の会 詰めるのは、グループAで詰めたらいいと思います。

僕の経験から言いますと、僕も同じような経験をしたんです。ごみが5つぐらいありまして、鍵はあけた状態です。何個でも捨てられるんです、開けた状態だと。いちいち閉めませんよね。最後の投入、開けて、閉めて、また入れて、ずっとこれを繰り返すんですけど、全然問題ないです。最後に鍵を閉めた途端にあかなくなったんです。

おそらく学校ですから、ごみが10か20あったときに、当然、鍵は開けてます。そうするとずっと捨てられるんです、構造上。最後に閉めた途端に赤ランプがつくということで、そういう問題もあるような気がします。それはAでもうちょっときちっとして、利用者に注意喚起することは注意喚起するということで、対応を考えたらいいんじゃないですか。

○利用者の会 そうですね。ついでに。

1月ということで新年度が始まるわけです、暦上の。欄外に過去との評価という件数だけの評価になってますけど、この辺、グループAで議論したらいいと思うんです。その場合には件数だけではなしに、やっぱり中身です。今回はぶら下がりとなってますけど、これまでは詰まりか何かの表現やったと思うんです。閉まらない、その下にいっぱい詰まってるから閉まらない。それと同じようなことだと思うんです。

ぜひこの辺、今、忙しい中、大変やと思うんやけど、新年度が始まって、やっぱりチェック・アクションというかPDCAを回す意味でも、中身を具体的に、これが何件、あれが何件。それに対してどうやということをまとめていただいて、グループAで、そしたらワースト3、ワースト5かわかりませんが、そこを徹底的にやろうかと。どうしたらなくなるかを議論していかないかんと思うんです。

そのために、技術経験豊富な方がおられますので、その辺の意見も聞きながら、この辺の住民起因の故障トラブルについては活動を進めて、減ったというのを市のトップにも議員さんにも評価してほしいと思いますし、ぜひよろしくお願いします。

○市 議題 2、経費削減の取り組みの検証について、資料 2、尾川が説明します。

資料 2、経費削減の取り組みで、電力入札による削減、またブロワの運転時間の変更、運転方法の変更による削減で、前回、12月に協議会がありませんでしたので、今回、11月分、12月分を書いております。

パイプライン電気使用量としましては、29年度11月が9万7,710キロワットアワー、金額としましては185万1,882円。これが関電のままでしたら300万円ほどですので、削減金額としましては115万1,128円。12月にしましては、電力量としまして11万770kWh（キロワットアワー）、電気代としまして202万675円。これも関電と比べますと116万3,289円の削減になっております。

10月、11月は芦屋浜のパイプラインが止まっていた関係もありますので、少し電力量が減っております。12月は、去年28年度に比べて少し電力量が減っております。4月から12月までにしまして、順調に毎月115万円ぐらい関西電力と比べて削減を図っております。

資料 2 としましては以上です。

○利用者の会 春木です。

先ほど新年度が始まりますと申し上げたんですが、もともと平成26年の第3者委員会のときには、コストと環境、地球温暖化、それと公平性が問題視されてたわけですよ。

これ、計算できるかどうかあれですが、新年度に当たって、今年のチェック・アクションと言いましたけど、コストダウンの途中成果といいますか。そのまとめと、それ以外に地球温暖化、これまで言わせていただいたんですが、CO2も多少なりとも削減できていると聞いてますので、ぜひ今年の活動実績の中に実績として入れていただい

て。これからのコストとCO2です。今、石炭ボイラーで兵庫県以外にも問題視されてますが、それらを含めて平成26年度からどうなんやということも今年の実績として評価していただいて、今後のワーキングの中で出していただきたいなと思っております。

それと台風21号の件ですが、それで使用電力量が減っています。これは、この中で電力のプラスに評価できるんですが、一方、費用として収集車で運搬されたわけですよ、その間。この収集車にかかった追加の費用は出てますか。マイナスはマイナスとして載せるべきやと思うんです。参考か何かわかりませんが、もしわかるのであれば載せていただきたいと思っております。

これもワーキングの活動の中の1つやと思います。それも、どないか改善できんかということで、改善できるかどうかは今後によると思いますが、ぜひ、その辺もよろしくお願ひしたいと思います。

○市 今、手持ちに資料がないですが、うろ覚えで申しわけないですけども、3週間ほど車収集、芦屋浜、全域からちょっとずつ減ってきてという形です。1日、車収集に9万円ほど、全部で200万円ほどになります。

○利用者の会 その辺、また調べていただいて、ワーキング、また1月からかわかりませんけれども、数（金額）が入るので、その中で。

○利用者の会 利用者の会の山口です。

削減額金額で1,000万円ということは、3月までに1,350万は達成できるかなと、非常にうれしい思いをしております。これは情報として教えてほしいですけど、芦屋市のほかの取り組み、ほかの電力会社を使う、現在どういう状態でしょうか。そこだけちょっと。せっかくこれだけ頑張っていて、目に見えて1,000万円も下がっているなら、ほかの話し合いは進んでいるとは聞いていますけれども、具体的にどう進んでいるか教えていただけますか。

○市 課が違うので正確な値はわかりませんが、本庁舎と市民センター、ルナ・ホール等はやっておると聞いています。入札した結果、競争した結果、関電が両方とも取った状況になっております。

○利用者の会 安くなったんですか。

○市 安くなったと聞いております。

次第に沿いまして、議題3パイプライン施設の多角的連絡体制づくりについて、資料3を山口さんから説明していただきます。

○利用者の会 利用者の会の山口です。

資料3、前回の12月の利用者の会で一応話をしまして、そこでOKいただいたものを持ってきました。もともとはグループBでずっと、去年の3月から話していることで、環境施設課と利用者、または利用者のほかの方、1万5,000人の方にどのように情報を的確にお互いがコミュニケーションしていくかというテーマで、いろいろ考えていまして、やっとここに1つにまとめたということで図にしてみました。

環境施設課は、基本的には市のホームページで芦屋市民の方にいろんな情報を伝えている。これは全般的な情報だと思います。この中につけ加えてほしいのが、既に済み

と書いてますけれども、芦屋市のホームページの第1ページから入ると、「暮らし」というのが上のほうにあって、それをクリックすると「ごみ・リサイクル」が出てきて、その中の1つとして「廃棄物運搬用パイプライン」。ここに全部まとめていただいていますので、そこに行き着くことはできるんです。

私もよくやってたんですが、その「暮らし」じゃなくて、下のごみのマークが書いてある、それをクリックするんです。そうすると、そこにたどり着くことができないということで、何とかそこを改善してほしいということ。

もう1つは、これは説明会を開いた中で出たんですが、やはりパイプラインに関するデータを見たいということで、我々のホームページにもいろいろデータを入れてるんですが、過去の議事録のデータがしっかりと市のホームページにはありますけれども、探し出すのが大変です。ですから、廃棄物運搬用パイプラインとリンクだけを、その辺の過去の議事録、施設検討委員会等の会議録をリンクしていただくといいなど、この2点ぐらいを改善点として挙げさせてもらいました。

2番目は、緊急事態が今回の台風みたいに発生したときになかなか連絡が難しいということで、メールの連絡網をつくらうということで、これは利用者の会にお願いをして、リストをほぼ作りました。今回、それは載せてないと思います。ちゃんとできております。100%ではないですが、メールを持っている方で、それぞれの組織、自治会・管理組合でどなたか1人を選択して、そこに連絡をしていただくということで、次のページにどんな連絡体制がいいかということで、メールに扱う運用で運用規則も作っております。

これも実際に運用してみないとなかなかわからないことがありますので、市のほうも後で、藪田課長から御連絡があると思いますけど、新しい、これ専用のメールをつくらせていただきましたので、市に。そこにお互い連絡して入れることでやっていきたいなと思っております。

おそらくやっていく中でいろんな課題が出てくるでしょうから、それはその都度、検討していったらいいと思います。ですから緊急事例、どこどこが動かないとか、あそこが全体的に台風で止まったよというときには、こういうもので連絡体制をしたらいいなと思ってます。

もう1つは、情報ボードを作させていただきました。これは既に、各投入口の上にあります。これは今、現在張ってある写真です。ただおもしろかったのは、この磁石ボー

ドに芦屋市のものとして書いてます。

この情報ボードも運用規則を作りまして、前回の利用者の会で、ここが変更したらいいというのが幾つかありましたので、そこは変更を入れております。これも使ううちにいろんな課題が出てくるでしょうから、その中でこの運用規則を変えていったらなど。

1つだけ抜けてたのが、今はちゃんと市の方は入ってますけど、日付を明記しておりませんでしたので、必ず、印鑑を押すと同時につくった日付も入れておくことで、これは利用者の人たちも、市のほうも、両方、印鑑と日付を入れるのを追加しております。

これは現在動いておりますので、あとは市の方がこれを一々、130個の投入口に張るのは大変なので、設置リストを最後につけてまして、この設置リストで丸がついてあるところは私たちが張りますということなので、これを、できるだけ住民の方も巻き込んで、きちっとしたものになりたいと思っております。

今、張ってあるのをずっと見てますけれども、ごみを捨てるときに必ず上をぱっと見ているのを、私も観察してたんですけど、読んでおられる方は非常に多いので、これは今後とも役に立つかなと。そして、市からの一方的なものではなくて、その自治会で、これは張りたいということであれば、市の環境施設課の許可さえあれば張れますので、そういうものもしていきたいと考えております。

もう1つは、ゴミパイプライン協議会、この会が定期的に1カ月に1回、それぞれのワーキンググループは不定期ですが、こういうもので定期的にコミュニケーションを図っていく。

もう1つ、電話もちゃんとありますので、この電話で何かの連絡をしていく。こういう形で、網羅的に環境施設課と今後とも連絡を緊密にして、一体化を図っていきたいということで、今回ついにまとめて、具体的な運用規則を作ったわけです。

おそらく、市のほうでテストとして、皆さん方からいただいたメールアドレスにメールが近々、送られると思いますので、私も送ったんですけど、リターンして通じてないメールアドレスもありましたので、その辺は今後とも改善していきたいと思います。

藪田さんから追加があれば。

○市 芦屋市の藪田です、よろしく申し上げます。

パイプライン施設の多角的連絡体制づくり、私から補足という形でさせていただきた

いんですけれども。

先ほども山口さんからお話がありましたけれども、まずメールですが、資料の2ページ目になります。電子メールの取扱に関する要綱（案）の中ほど、環境施設課ではパライン専用メールアドレスを作りました。このアドレスで送受信をさせていただこうかなと思っております。アドレスが小文字でpms.ashiya@city.ashiya.lg.jp、これを使っていこうと考えております。

これで、我々から、この要綱にのっとして故障時の連絡とかを送らせてもらおうと思います。ここにありますように、逆に住民さんから我々にも連絡することができると思っています。その際、このアドレス宛に、また、件名に概要がわかるように書いていただけたらありがたいかなと思っております。

これはメールでございますので、我々のほうは常時、このメールをチェックしているわけじゃないので、日に何回か確認はするんですが、やはり我々の勤務時間内でしか見れないこともあって、平日しか見れない。平日でも9時から5時半までしかいませんので、その間しか確認ができない。もし急用であれば電話のほうが確実かなとは思っています。

それと、リストなんか特にそうですけど、お名前であったり、メールアドレスであったり、個人情報があるということで、我々もこの運用には十分注意していきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

もう1つのツールとしまして、情報ボードです。これ、徐々に運用していています。先ほどもお話があったんですが、磁石が張ってあって、芦屋市と手書きですけれども、磁石に書かせていただいております。我々のほうで日曜日の実験のことでありますとか、年末年始の運用のことでありますとか、いろいろ張っているんです。

場所によって非常に風の強いところがあったりして、特に高層住宅の中なんかすごい風の強いところと弱いところがあって、この磁石、当初4つでしかとめてなかったんですけど、風で飛んでしまっていることがありまして、最近6つに磁石をふやしたんです。それでも、まだ風で飛ばされてしまうことが起きてます。

これは課題としてとらえてまして、どうしようかなと、どんな磁石にしたらいいんやろうかと考えているんですが。もし、飛んだりしているのを見かけた場合、芦屋市と名前が書いてあるので、拾っていただけたらと思います。

私もちょこちょこ見てるんですけど、本当に飛び散ったり。高層住宅の敷地内の通

路を飛び越えて公園まで飛んで行ったりしているのもあったりして。ちょっと風がきついているところがあるのかなという課題が今あります。

○利用者の会 棒磁石にしたらいいいん違う。

○市 そうですね。そういう意見もあって、費用との関係もあるので、またいろいろ考えていきたいと思っております。

私からは以上でございます。

○市 議題3に関しまして、何かございますでしょうか。

○利用者の会 御苦労さまです、春木です。

この掲示板の話が出ましたので、今、私ととも南浜町の1街区の自治会のところにも2点張っていただいて、あれ収集課からやったか、草木やとか枯れ草とか剪定ごみの出し方、投入口に入れる部分はそれで。あとは有料で連絡してもらったらということが張ってあったんです。

私、前回だったか話をさせてもらったんですけど、私も年2回ぐらいは剪定、草木ばかりやって、40リットルとか50リットルの袋に入れてやってるんですが、10キロ以内は無料です。それが書いてないです。持ってきたら10キロ以内なら無料だということも、一言入れておいてほしかったなという思いがあります。私は無料でやってますので、そういうことも一言入れておいていただいたらなと思いました。

それと、協議会の議事録の見方の話が出ましたので、これ言うのは心苦しいですが。協議会の議事録、30ページ、40ページとまとめ上げるのに、非常に御苦労されているのはわかって。また一方では、西宮の広域化とかいろんな業務がいっぱいいっぱい、大変、御苦労されていることもわかるんですが。

一方では、あるところから、ちょっと早く見たいなと。もうちょっと早く見たいという意見も出てますので、まとめ方は、しゃべった一言一句をそのまま載せるのも大変で、ページ数が多くなるので、もう少し簡潔にしたらどうかなというのもあるんですが、その辺は置いて。その辺は今後の課題ということでよろしく願います。

○市 それでは、他はよろしいですか。

次、議題4 運転方法の変更について、資料4、芦屋市の藪田から説明をさせていただきます。

○市 芦屋市の藪田です。

資料4は2枚あるんですが、1枚目裏表を逆にホッチキス止めをしてみました。

申しわけございません。今、多分、皆さんのお手元にある資料、1番上には運転方法変更について、日曜日運転停止結果報告（検証実験2）となっているんです。実はその裏が実証実験1となっておりまして、1と2、裏表を逆にとじてしまいました。裏面の検証実験1から説明させていただきたいと思います。

この実験ですが、昨年からの協議会で、維持管理の削減でありますとか、利便性の向上を目的として、運転方法の実験を行ってきました。4月以降、次年度の委託契約に反映させるために、今、実験を、本格実施という形へ移行したいと考えております。今から説明させていただきますけれども、1度、利用者の会で協議してもらって、次の2月の協議会で御回答いただければと思っております。

それでは資料に沿って説明させていただきます。

運転変更、実験1につきまして、今までの運転が、実験前の運転は朝の定時運転を7時から行っておりましたが、実験では電気代の安い時間帯に変更するために朝の5時半から行うようにしています。そのほか、昼間の満杯運転を、赤ランプ3カ所ついでからというところを6カ所ついでから運転するように変更したり、夕方の定時運転はやめまして、16時から中高層の多い箇所のみを運転するように変更してまいりました。実験期間は昨年の7月からスタートしておりまして、現在も行っております。

実験データとしては、その下の比較表のとおりとなっております。この表の2行目、1日当たりの運転時間で平成24年から表にしてありますけれども、1行目を見ますとごみ量が書いてあるんですが、ごみ量は平成24年は1日当たりの7トンとか、25年は7.8トン。こういう量で、最近6トン前半という数字でごみ量は半分減ってきてはおるんですが、実験をする昨年までは大体300分前後で推移しておりました。

この実験開始後の平成29年度を見ていただきますと、この300分をかなり下回って268分、1日当たりのフロアの運転時間が268分となっております。

その下の3行目の1トン当たりの運転時間につきましては、平成29年度の値は44.0分で、その前年の28年度と比較して若干よくなってきています。ただ、もっと前の25年、26年、27年、このあたりで1トン当たりの運転時間は短いですが、やはりごみ量が多いせいか、効率がこのころはよかったのかなと思っております。

ただ、この実験のメリット、この実験から見える結果ですが、朝の定時運転を電気代を安い時間帯にしたことによって、この実験前に、平成29年1月の第5回の協議会のときに試算をしてるんです、どのくらい削減が見込めるか。第5回の協議会のときに

は1年間で約50万円の電気代削減が見込めると説明させてもらってたんですが、今の実験結果のデータで計算しますと、1年間で約70万円の電気代の削減ができています。結果になってきております。

また、早朝に運転してますので、朝の通勤時間帯には満杯箇所が少なくなっているため利便性も向上しているのかなと。実験としては成功の方向じゃないかなと思っております。

デメリットにつきましては、1番下に①、②とありますけれども、おおむね良好で、この実験はできているんじゃないかなと思っております。

続きまして、1個手前のページ、検証実験2の説明です。林にかわります。

○市 運転方法の変更について、11月の協議会で提案させていただきました、日曜日の運転停止の維持管理の削減について説明させていただきます。

現在、日曜日は委託業者の方がおられまして運転を行っているんですが、日曜日を休日として出勤もせず運転もしなければ、維持管理の削減ができるんじゃないかということで検証を行いました。

こちらに載せさせていただいているんですが、今までの日曜日の運転といたしまして、通常運転、定時運転、満杯運転または故障対応、モニターで解消できる範囲ですけど、対応しておりました。

また検証実験といたしまして、日曜日の運転はしないという形、または故障対応も行わない。現場でちょっとした作業も行わない形で対応させていただきました。この検証実験中に関しましては、あとの表で説明させていただくんですが、1時間ごとで、どこの投入口が満杯になったかを記録をしておりました。

検証期間といたしましては12月と1月、2カ月間で、12月31日だけ、日曜日だったんですが、この日は除いております。実際の運転はしておりました。

今回は途中経過といたしまして、満杯箇所割合（12月～1月）、5日間のみ途中経過の表を説明させていただきます。表の説明ですけど、左からNO. を振らせていただいています。これは投入口NO. とは関係ありません。次に場所、次に個数は投入口の個数になります。次に満杯の割合といたしまして、この個数に対して、何%満杯が出たかを各場所によって示しております。1番右手に平均値を示しております。

まず、NO. 1から説明させていただきます。NO. 1に関しましては、パイプライン全域に対して投入口は全て130個ありまして、そのうち何%割合がついたかを示しており

ます。初日の12月3日に関しましては130カ所の中で68.8%、最終的に1月7日ですと49.2%で、大体、半分ぐらい満杯が出ておりました。平均といたしましても55.8%満杯でした。

パイプライン全域になると範囲が広いので、前のスクリーンで説明させていただきます。NO. 2と3で、芦屋浜地域と南芦屋浜地域で分けてパーセンテージを出しました。130を2つに分けて、芦屋浜地域に関しましては投入口が99ございますので、99。南芦屋浜地域は31個ありますので、31と分けて割合を出しております。

NO. 2の芦屋浜地域におきましては投入口が99ございまして、12月3日に関しては、そのうちの78.8%が満杯、赤ランプになっておりました。最終1月7日に関しましては62.6%、平均いたしますと69.9%。芦屋浜地域に関しましては、日曜日に運転をしなければ、大体7割ぐらいは赤ランプになっております。

NO. 3です。南芦屋浜地域に関しましては投入口が31個ございました。初日に関しましては3.2%、投入口が1個だけ赤ランプが発生しました。実際、見ていただくとわかるんですが、南芦屋浜地域に関しましてはごみを貯留する容量が大きいので、満杯の個数は芦屋浜地域に比べ少ないことがわかりました。

続いて、NO. 2で2-1から2-4と振らせていただいております。芦屋浜地域に関しましては4つの地区に分けて、それぞれ検証を行いました。99を緑色・黄色・青色・赤色として分けて、どれぐらいの割合で満杯、赤ランプになったのかを示しております。

まず緑色、主に戸建て地区になります。浜風町・新浜町ですと投入口の個数が33個ございまして、12月3日に関しましては81.8%。最終的には、1月7日で63.6%、平均で67.9%という結果が出ました。

続きまして、赤の地域になります。こちらも戸建て地域の潮見町と緑町になります。投入口の個数が34個ございまして、初日12月3日が73.5%。最終的にはかなり減りまして、1月7日に関しましては38.2%。平均しますと57.0%になりました。

続きまして、黄色の地域です。具体的には緑第2住宅とラ・ヴェールのスクリー型のところになるんですが、こちらは投入口は3つございまして、計6個の投入口に関しまして検証を行いました。5つ中3日が100%、大体、運転しなければ赤ランプになる結果になりました。平均しますと90%という高い数字になりました。

最後の青の地域、高浜町、若葉町の高層地区に関しましては投入口の個数が26個。初

日は76.9%、最終92.3%となりまして、平均しますと83.1%。こちらに関しましては、戸建て地区と比べまして高い数字になりました。

その下に参考ですけど、実際、どの時間に満杯が多かったかを示しております。これに関しましてはパイプライン地域全域を示しております。時間帯は、19時～5時は土曜日の19時から日曜日の朝の5時にかけて、どれぐらい満杯であったか。それぞれ6時から9時、10時から12時、13時から15時、16時から18時、日曜日の19時から翌日月曜日の朝5時までを示しております。比較的、お昼から夕方にかけては、それぞれ20%という高い数字になりました。四捨五入の関係で、合計すると99.9%になりますので、御了承ください。

続きまして、実際、設備のトラブルや住民対応がどれぐらいあったかを下に示しております。設備トラブルに関しましては2件ございました。運転はしていませんけれども、南芦屋浜地区に関しましては、貯留ドラムは自動で動く部分がございますので、それらのところで異常が発報しまして、2件ございました。

2番目の住民対応、電話等の対応はゼロ件でありませんでした。あくまでないというのは、芦屋市の環境施設課に電話がなかったことを示しております。

その下にメリットとデメリットを書かせていただいているんですが、メリットといたしましては日曜日で業者が来ないことで維持管理費の削減が見込める。また2番目、日曜日の定時運転をしないので運転時間削減が見込める。デメリットといたしましては、1回、赤ランプになると運転をしないので、その後は月曜日の朝になるまでは投入が不可になります。

また、誤投入や軽微な、簡単な補修に対しても運転員がいないので行えない。3番に関して、緊急対応がおくれる可能性があると思っております。

こちらに関しましては1月末までが検証期間ですので、途中経過として報告させていただきます。

また、これもワーキンググループAに関してのことなので、追加の資料等ございましたら、また随時、報告させていただきたいと思っております。

報告は以上です。

○市 それでは運転方法の変更について、何かございますでしょうか。

○利用者の会 利用者の会の山口です。

まず、実証実験1に関しては良好な結果だと私は思っておりますので、来週、利用者の会

に説明して、これでいいということになるかと思っています。これは問題ないです。

実証実験2です。どうこの数字を読むか、なかなか難しいかなと思います。NO. 1、2、3から見ると、どんどんデータ的には減ってきてるといえるか、少なくなってきたので、利用者の方も、日曜日は捨てるならあかんのかなというのが少しずつ浸透してきて、コントロールし始めてきているのかなと思っています。

実は日曜日の件で、ボードに張ってあった文言を変えていただいたんです、途中から。というのは私に連絡が2件ありまして、自治会から2件連絡があって、日曜日は捨てるならあかと自治会内で達しを出して、誤解を招いた部分があったので、日曜日は赤ランプつくまでは捨てられますよという話をしながら、あれを書いていたんです。

中層2-3を見ると、1月7日だけ下がってますけど、ほとんど100%で、中層は昼夜必ず赤ランプがつくのはよくわかりました。傾向としては、日曜日におそらくコントロールし始めて、だんだん日曜日は赤ランプがつくからやめようというのが浸透してきているかなと思いますけれども、もうちょっとこれはデータを見たほうがいいかなと私は思います。

○市 検証実験2に関して、来年度、平成30年度4月1日からの高砂熱学さんの委託の契約の話は、この3月にはしないといけません。市内部の事務手続等もありますので、2月から動き出すんですけど。そのときに、実際、日曜日に作業員を派遣するのかどうかで値段がちょっと変わってくるのもありまして。この実験を続けるのは結構ですけども、判断としましては1月末をもって、日曜日、高砂熱学さんを監視させるのかどうかの判断が必要となってきます。

リスクが高いという設備事故対応が2件あったりだとか、やっぱり日曜日の利便性が落ちたというのもあるとあって、通常どおりするのであればそれはそれで、今年度29年度と同じような契約になります。新たな、削減金額は置いておいて、日曜日は引きませんと、ブローを運転しませんという状況でやるならば、2月には判断をするような段階なのかなと思います。

明日の14日と21日と28日、あと3回の状況を見て判断という形ですか。

○利用者の会 春木です。

検証実験1ですが、これは確認したいんですけど、1日の運転時間、運転は、今、定時運転と送風機2台運転、それ以外だと送風機1台運転やけど。ここに書いてある運転

時間は、2台を同時に運転している時間と1台だけ運転している時間を単純に合計した時間。

○市 プロア各々の合計なので、2台運転やったら2倍です。

○利用者の会 2倍ね。そういうことをして、この時間になっているということですね。わかりました。

このファンの運転については、私としたら1台で満杯運転を一度テストしてほしいなという思いを最初から持ってるんですが、これはワーキングでやっていただいたらなと思います。

検証実験2については、山口委員長も言われていたように、中高層以外は、スタートから比べるとずっと割合が減ってきてるなという気がしています。特に顕著なのが低層地区の潮見と緑町。ここが非常に減ってきたなと。この辺、特別に何らかのことを自治会としてやられたのかなという気もしてまして、また、いい活動であれば広げていただきたいなと思います。

私とこ、ある人は、こういうふうにして住民みずからやってるのはいい活動やなど評価されている方もおられました。

それと、この設備トラブルの南芦屋浜地区の2件ですが、1番最初にいただいた資料1の中にまだ載ってないですか。1番最初にいただいた資料の12月17日の日曜日、陽光町のみ込み異常が出てるんやけど、この設備トラブル、具体的に何なんですか。

○市 両方のトラブルはのみ込み異常ですけれども、こちらの報告書に挙がってなかったもので、わかりません。また確認しておきます。故障自体はのみ込み異常が2件ございました。

○利用者の会 この17日ともう1件、どこかにありますね。

○市 あります。

○利用者の会 ただ、載ってないだけやね。

せやから、17日の日曜日以外にも、他の日曜日で同じのみ込み異常があったということですね。

○市 また確認して、説明させていただきます。

○利用者の会 利用者の会の山口です。

確認をさせていただきたいんですけども、日曜日に赤ランプがしばらく状態、月曜日5時半からごみを引いて、その日の朝、問題なく利用者の会の方のごみを捨て

られる状況になったんですか。それとも何かトラブルがあって、月曜日、これはだめだとか、その辺はどうなんですか。確認だけ。

○市 トラブルの内容にもよるんですが、こういったのみ込み異常に関しましては次の日の月曜日朝、そこの投入口だけ投入できない形で、ほかの投入口は投入可能です。そこだけジャンプして定時運転を行うような形になります。

○利用者の会 データとして問題なかったんですか。

○市 一応、それは大丈夫です。

○市 それでは、議題5今後のパイプライン施設に関する提案の説明会の報告で、資料5になります。山口様から説明していただきます。

○利用者の会 利用者の会の山口です。

資料5、5ページありますけど、見ていただけますか。提案に関して、私たちのほうで約3カ月かけて説明会を設けまして、そのレポートでございます。

はっきり言いまして、土日、土日ばかりで大変だったんです。

市議の方に関しましては、9月にやったんですけど、21名中15名の方、自治会・管理組合に関しては35（団体）。これは私だけではなくて、内部でも説明したところも入っています。パイプライン利用者、これは11月26日じゃなくて、もう最後までで198名の参加がありまして、この11月26日は消してください。

まず、市議の方です。私たちの活動に関して、非常に評価しておられる方がおられましたので、その内容は①で書いています。②は、ごみ減量審議会も含めて、芦屋浜まちづくり全体の中でパイプラインを考えてほしいという意見が出ました。

今後の課題として、議員の方が提案されたのは、高齢化でごみを捨てるのが難しい方への具体的な対応策が必要だと。それから、試算した結果を超える場合にパイプラインをどうするか、そのときの期間と費用。それから、とりあえず5回が前提となっています。それを、いかにソフトランディングをしていくか、1つ検討しないといけない。公共施設も非常にメンテナンス等が問題になってますので、その辺のバランスをどう考えるのかの4点が議員の方らしい質問だなと私は感じて、ここに載せております。

私たちのコメントとしては、当然、不十分な部分もありますので、パイプライン協議会を通じて、具体的に検討していきたいという返事をしております。

2番目は、各自治会・管理組合の説明において出た問題です。

行政の責任についてという項目でしゃべると、パイプライン施設を維持管理する制度上の責任は市にあるのではないか。寿命があることを知って私たちに売りつけたということでは、県はかかわってないのでしょうか、売り出したのは県ですから。そういう意見です。

次のページに、パイプラインを何年もたせるのかということで、私たちは10年、20年、30年と案を出したんですが、お1人だけ非常にロジカルな方がおられまして、Aが費用的には安いので、Aがいいんじゃないかという方が1人おられました。なかなか鋭い方なので、これに載せています。

パイプラインの代替案に関しては、代替案設置でもめるのではないのでしょうか。これから社会インフラのメンテにお金がかかることを考えると、新たなシステムを入れることはない。逆の考え方です。お金を投資するのは、そういうことをする必要はないという方もおられます。代替案は戸建てのことも考慮してほしい。

西宮市との広域化に関しては、一気に進んだらパイプライン施設も含まれるのではないだろうかという御心配。それから、西宮市との焼却場統合は現在、進展がどうなっているのかという御心配。

その他、週5回の収集の妥当性はどこにある。それから利害関係者が非常に多いので、その辺の調整をどうしていくのか。今後のパイプラインの補修対策を検討しないといけないのではないか。廃止する場合には、全部、一緒にするのかどうか。高層は下までごみを持って行かなければなりません、その対応は。行政サービスのアンバランスは当たり前ではないだろうか。

これは説明が要るんですけども、全てを公平にすることは不可能です。ある地域ではこの点がすごく優れて、ある地域は劣っている。逆にいろんな場合があると。それを100%全ての地域で、同じ公平にするのは現実的ではないという意見の方でした。

それから、住民側がお金の負担をして、パイプラインを継続させることはできないのだろうか。今後のパイプライン施設の方針はいつごろ確定するのか。南芦屋浜地区は小学校問題で180度ひっくり返った経験があるので、今回も同じことにならないか心配していると。今後のスケジュールはどうでしょうか。

私たちのコメントは、行政の責任についての気持ちは十分理解できますが、40年前の話をして、何も解決できません。それよりは、現在の問題をどうやってうまく解決していくのかにパワーを使い、私たちの重点を置いたほうがより重要だと考えます。

存続期間に関しては、20年に関する意見はほとんどありませんでした。お1人だけ、費用だけ考えるとA案ではないかという方がおられました。ただし、これは全体的な納得性という点では、利用者全部を10年で説得することはできない。B案がより納得性を持ったものであると考えます。

代替案に関しましては15年先の話なので、今後の技術開発を含めて、継続的な検討が必要だと提案しています。ワーキンググループで詳細の検討を継続的に進めますと話をしております。

広域化に関しては、心配はあるでしょう。しかし、ごみのパイプラインの問題はごみの運搬手段の話なので、広域化されても焼却の話とは別ですよという話をしております。

次のページ、住民説明会。これもいっぱい意見が出まして、まず行政の責任について。主な問題は、輸送管の厚さがどんどん薄くなってくると考えますが、どのように考えているのでしょうか。最初から壊れることを前提に、インフラは30年程度で全部取りかえるなど計画をしていかなければならないのではないのでしょうか。県の販売者としての責任はないのでしょうか。市のパイプラインに関する資料が不足しているのでは。パイプライン施設を設置した理由は何ですか。

4番目が、後から補足で聞いたんですけれども、私のほうは、ネットにいっぱい出ているので見たらどうですかと話したんですけれども。この方、後で個人的に話を聞いたら、ネットがないんやということで、そうですかと、初めて、そのとき、わかりました。

それから、パイプライン施設を利用した理由は何ですかと根本的な質問もありました。稼働期間に関しては、パイプラインを継続して使えば使うほど費用は増大していくので、合理的に考えれば、できるだけ早くとめるほうが責任ある提案だという意見の方が1人おられました。世界最高峰の環境に優しいパイプライン施設をお金の問題で話をすると残念だと、もっと長もちさせてほしい。気持ちはよくわかります。

パイプラインの代替案について。私たちの意見、戸建てが反映されてない提案となっている。特に代替案について、地下ピット方式は検討されたのですか。この芦屋地区には戸建てと集合住宅があるので、代替案を1つにまとめるのは無理ではないでしょうか。今後のパイプライン施設に関する提案が、そのまま審議会で通ることを心配している。

戸建てはオートロック式の集積場の推薦案を、いつ、誰がどのように決めたのでしょうか。オートロック式の集積場の設置を、戸建ての前に設置することは反対する。潮見南は、戸建てでは地下ピット方式を提案する。現状の推薦案は、現在、実際によく使われているものの中から推薦をしている。地下ピット方式も含めて、今後、継続的に協議会で検討していったらよいのですと。戸建てのオートロック式の集積場での管理、掃除などは高齢化を考えると難しい。こういう意見が出ました。

広域化に関しては、運搬が二度手間では費用が増すのではないかと。今回の説明に対する御尽力に感謝する。今後20年もたせるとのことですが、西宮市との広域化で、パイプライン施設にどのような影響を与えるのでしょうか。西宮市との広域化に対するパイプライン利用者の会のスタンスはどんなものか。

その他、歩道の下にある輸送管が陥没したらちょっと心配だ。他都市でパイプラインを廃止された理由と存続している理由は何でしょうか。利用者の会はNO=フィーで行っているのですかということ、そうですということ。市長に提案した見通しはどうなっているのでしょうか。

5番目、パイプラインのメリットを享受しているのだから一部住民が負担、寄附も含めてする考え方はないでしょうか。この一方、負担したいという方もおられますが、一方において負担したくないという6番目の方もおられました。

具体的な例で、負担をどうするのかで、パイプラインとパッカー車の差が1万2,000円と8,000円で4,000円ありますので、その4,000円を利用者が負担してはどうだろうか。この説明会の位置づけを知りたい。これを決める中、ある程度、柔軟性を持ってもらいたい。安価で耐久性のある輸送管を検討する必要があるのではないかと。市にどのようなプレッシャーをかけたらいいのでしょうか。パイプラインの利用者に寄附金を募り、補修費用途限定にして、それを市にお渡しすると。そうすると住民の熱意が伝わるのではないのでしょうか。むしろ、パイプラインを廃止するんじゃなくて、市全体に広げたらいいのではないかとということもありました。皆さんの意見を聞いて、提案を作成してもらいたい。

このような説明会の場を設けて、話を進めていくことは評価できる。提案に地域の特徴を考慮した具体的な代替案を加えたらどうか。パッカー車が入れないところはどうか。利用者の会の幹部組織、合議スタイルを各住宅形態に応じたものに変えたらどうであろうか。利用者の会は住民一体となって行っていきたいということで、

まさしくいろんな意見が出ました。

私たちのコメントとしては、40年前の話をしては何ら解決はできませんので、本題を解決することにパワーを集中したい。パイプラインの存続期間に関しては、20年継続に強い反対はありませんでした。お1人だけ、上記の質問がありましたが、費用の点を考えるとそうですけれども、しかし、利用者の納得性という点では納得できないということで、B案を容認する方がほとんど大勢でした。

代替案の話は、今後の技術開発を含めて、継続的な検討が必要と提案します。私たちの住んでるこの地域はいろんな人が集まり、住居形態も異なるので、時間をかけて、協議会のワーキンググループで詳細の検討を進めることを考えています。誤解しないように、代替案はC案と最終的に決めていることではないことを、今回の説明会で説明していますし、市も誤解のないようにしていきます。

広域化について心配されることは理解できます。ごみの焼却問題で、焼却場が広域化されてもパイプラインが廃止されることにはならない。この問題は、市民自らがこのことに興味を持ち、会議の傍聴者として参加し、インターネットを初めとして学び、活動していくことが重要である。

その他、いろいろ徴収や寄附、ファンドのアイデアが出てきました。しかし、一方において徴収方法やお金を出したくないという意見もあり、現実的に集金するのは非常に多くの問題があります。

現在、このような説明会を実施しましたが、参加者の方から多くの称賛をいただきました。パイプラインのことにより知識不足や誤解も少しは解消できたかと思います。

なお、皆さん方の意見を踏まえて、今後のパイプライン施設に関する提案で、文書の追加と変更を2月の協議会で検討します。来週、利用者の会がありますので、つけ加えたいところとか、ちょっと変更したいところもありますので、提案をさせていただきます。

具体的に1つ言いますと、10年、20年、30年は、いつから10年、20年、30年なんだというのがあったんです。確かにそのとおりです。ですから、その辺も、私のほうはアイデアはありますので、そこも含めて、代替案のことも含めて来週、検討したいと思っています。その検討を踏まえて2月の協議会で、皆さんと一緒に話をしたいと思います。

3カ月間かけて大変だったんですけれども、皆さん方に御協力いただいたことを感謝

します。

最後に、私の思いですけれども、この活動は、まず長年お世話になった、私たちが芦屋市に恩返しをしたい。それは、このパイプライン問題を、住民自らが市と一緒にあって問題を解決したいという強い思いがあります。私たちのこの地域の問題があれば、そのことを学びながら、文句を言う前に、言葉だけではなく、自らが問題を解決するために行動することが大切だと考えます。そうして、便益を受けている私たち、この現在の利用者が次世代に先送りをして迷惑をかけることなく、私たちが市と協力を図りながら活動すべきことが、これからの芦屋市を築くよい方策だと考えています。という基本的な考え方がございます。

以上です。

○市 今の山口さんの今後のパイプライン施設に関する提案の説明会の報告について、何かございますでしょうか。

○利用者の会 委員長、大変、御苦労さまでした。まとめ上げて、また住民説明会、いっぱいいっぱい市議にも説明されて、大変だったと思っております。本当に御苦労さまでした。

私、ちょっと思ってるんですが、最初の議事、そのときにも話をさせていただいたんですが、暦の上では新年度に入ったわけですが。予算なんかですと4月からになります。やっぱり今年度の活動に際して昨年度の活動のチェック、反省なり評価が非常に重要だと思っています。住民起因故障・トラブルが減少したかとか、コストダウンはどうだ、環境改善、地球温暖化の取り組みはどうだったか。それに対して新年度の課題は何かとか、また10年後、20年後、30年後の費用を試算しました。あれは、一応、中長期の計画です。

いよいよ10年、これからスタートするわけですが、とりあえずは10年後の中の各期に、計画したことに対して、今後どのようにプランを立ててやっていくかということ。あの中にも貯留排出機やとか、輸送管やとか、課題としては信号のループ、あれも残ってるわけですけど、あの辺。一応、コストダウンについては年間2,000万という目標を掲げています。新年度に当たって、さらにそのコストダウンについては課題がないかと、さらに取り組むテーマはないかということですよ。

代替案についても、先ほど説明がありましたように、この協議会でも地下ピット方式の説明などもやっていただきましたし、なおかつ議会でも地下ピット等についてアピ

ールもしていただいています。また一方では、今後さらにいい収集方式が開発されるということも言われている方もおられますので、今後ともやっていただきたいと思っています。

やっぱり芦屋市にとって、戸建てから高層まで、それぞれ個々にどのような代替案がよいとか、具体的に現状把握なり課題を検討する必要があると思っています。

私は経験上、使用する側が構造機能原理をよく調査・研究して、それで課題が何かとあったことも含めてやっていく必要があると思っています。幸い利用者の会にも、これまで民間で非常に多くの実績なり経験の積まれてこられた技術者の方も多数おられますので、機械やとか電気計装、土木建築、1級建築士の方もおられます。民間で非常に頑張っておられた方の技術を存分に利用していただいて、こういう言い方をしたら悪いかもしれませんが。

今、藪田課長初め、尾川さんや林さん、3人で非常に多くの仕事を抱えてよくやられているなと思っています。一方でそういう民間の技術を活用していただいて、ぜひ、芦屋市にとっていい活動になるようにやっていただきたい。新年度が始まりますし、早くワーキングの活動をスタートしたいなと私自身も思ってますし、実績を出していきたいと思っています。

一方、この辺の取り組みについては、その時々、行政のトップにも経過報告なりをしていただきたいなと思ってます。こんなことをやっているんだと。代替案については、今、こんな新しいシステムについても研究してるんだということを、その時々、行政のトップに報告をお願いして、理解を求めていただきたいなと思っています。

私はこれまで参加していると思うんですけど、行政にとって、これだけ住民と行政が一体となってコストダウンまでやって、非常にいい活動ではないかなという気がしますので、その辺、行政のトップにも市議にも伝えていただいて、この辺の代替案を含めて、今後も継続して一緒に、忙しいとは思いますが、3人で。思うんですけど、やっていただきたいなと思ってますので、よろしくお願ひしたい。

○市 ありがとうございます。続きまして、議題6、市の考えについて、資料6、1枚ものになります。環境施設課の藪田から説明させていただきます。

○市 議題6、芦屋市の藪田です。

パイプライン施設のあり方について、市の考えを市議会に説明してきましたので、報

告させていただきます。

この取り組みは、平成28年8月ごみ収集パイプライン利用者の会の皆様とごみパイプライン協議会を立ち上げ、9月17日から協議会を毎月開催し、皆さんと話し合いを重ねてきました。約1年後の8月末に、協議会として提案書という形をまとめたものを作成しまして、先ほど山口委員長から御説明ありましたが、利用者の会から住民の皆様へ説明していただきまして、御意見などを伺ってまいりました。

その御意見を参考にしまして、市としての考えをまとめ、昨年暮れの12月15日、市議会の南芦屋浜まちづくり調査特別委員会で説明してまいりました。市の考えについては、おおむねこの協議会で作成した提案書に沿ったものでありますが、多少、市としてつけ加えさせていただいております。

内容については皆さんも御承知のことだと思いますので、市でつけ加えた内容を説明させていただきたいと思います。

資料の1ページ目の後半に、(2)の四角の枠の中がございます。南芦屋浜の代替収集への切りかえの作業に、2年間という期間を設けさせていただきました。これは芦屋浜が15年から20年、約5年かけて切りかえていく投入口の数と南芦屋浜の投入口の数、この割合で計算しますと2年あれば行けると考えましたので、期間を2年とさせていただきました。

次、2ページ目の枠の下の2つ目の米印です。今後も引き続き行う、代替収集方法の検討について、ここに高層、中層、タウンハウス、戸建て住宅などの住宅形態も鑑みるとつけ加えさせていただきました。

次に、下にある棒グラフの下の(4)その他です。このパイプラインのあり方の話は、今後、20年とか30年とか期間が非常に長いこともあって、この間、どのようなことが起きるのか予想がつくにくいことがありますので、その間、まちづくりの見直しがある場合には、今回の内容にとらわれずに、再度、検討ができるようにということをつけ加えております。

最後に3の環境への取り組みとしまして、環境に優しい清潔なまちづくりに向けて、一層推進していくためにオートロック施錠つきごみ集積施設に加え、温室効果ガス排出量削減や収集時の騒音対策などのため、電気自動車型ごみ収集車などの運用を、この地域に試行的に導入できないか検討することをつけ加えさせていただきました。

これらの説明の後、この委員会では各委員から質問等ございましたけれども、市の考

えについて異論はなかったのかなと思っております。このときの詳しい状況につきましては、12月15日の会議のビデオが市のホームページに出ておりますので、議事録ができるまでは、そちらをごらんいただければと思います。この内容で、今年度中に廃棄物減量等推進審議会に諮問していきたいと考えております。

議題6、市の考えについては以上でございます。

○市 議題6に関しまして、山口さんから。

○利用者の会 利用者の会の山口です。これに関する感想を話させていただきます。

1年間、協議をしてきまして、おおむね、私たちが協議した基本的な内容を市の基本的な考え方に入れていただいたということで、私は非常に感謝をさせていただきたいと思っております。と同時に、おそらくこういう住民の意見を市の中の具体的な方針として入れていただいたとか、私たちから言うと、入れさせてもらったと言いますか、そういうことは初めてではないかと思っています。

このやり方が、非常に中でまとめるのは、いろんな意見があって大変なのは大変ですし、皆さん方も、お1人、お1人が自分の思いがあるので、非常にそれは大変ですが、そういう思いを活字にして、こういう形でまとめていくということは、今後の市の行政にとっても非常に大切な手法ではないかと思うんです。

ですから、いろんな手法はあるでしょうけれども、こういうやり方で、できるだけ住民の意見も考慮して、住民側のノウハウがあるんです。実際に働いておられて、そのノウハウもあるので、それを生かすということ。そのことによって、実際に実施するときに非常にスムーズに実施ができるということで、ぜひとも今後ともこのやり方、このノウハウをほかのいろんな形の市の行政にも生かしてほしいというのが、私の個人的な思いです。

○利用者の会 これまでの活動の結果を踏まえて、一応、市の考えでまとめていただいた、利用者の会の意見を反映した上でまとめていただいたと思います。

ここにも書かれているように、市の考え、さらなる経費削減対策に取り組みや、今後とも検討していくやと、いろんなことが書かれています。代替案についても、導入までの期間、技術革新や住宅形態を鑑み、合理的な収集方法の検討を続ける。あるいは45年間の費用についてもいろいろ書かれて、環境への取り組みについても、一応、こういうふうに検討、検討と書かれていると思います。

これを今後進めていく上で、やっぱり利用者の会、住民を代表した利用者の会、それ

と行政。この辺を今後とも、この辺の会議、会合なりを進めていく中で最適な方法、その辺が非常に大事なことやと思うんです。住民だけがわあわあ言うてもあれですし、行政だけが勝手にどうのこうの言うてもまとまりが付きませんし、やっぱり住民が一体となって理解した上で、行政とともに、当然、芦屋市の将来に向けていい形でというのが1番の肝だと思うんです。

したがって、この辺はコストダウンについても、CO2削減についても、この設備の運用年数についても、これらは一応、出しましたけど、あれははっきり言えば何の根拠もない中で、10年、20年、30年、経験だけでぼんと出してきたやつです。これからが私がスタートだと思ってます。そのときには、やっぱり利用者の会でも、そういう技術的な経験を踏まれた方がたくさんおられますので、やっぱりワーキングで、この中、行政と一体となって進めていってほしい。今後も継続するんやということを、やっぱり行政のトップにも理解していただきたいし。その中で、方向を決めていったらいいのではないかなと思うんです。コストについても、環境についても、代替案についても。

あの中にも載ってましたけど、芦屋市の将来に向けたごみビジョンもやっていくことを提案の中に委員長が載せられています。その辺、非常に行政にとってもいい活動やと思うんです。住民と行政とが一体となった活動。

ということで、今後とも利用者の会、協議会、この活動を続けていくと、継続するということが非常に大事やと思ってますし、それをその時々、市のトップにもこれだけ頑張っているんや。代替案についても、こんな地下ピットとかあるでとか、また画期的なものが出てくることも言われている人もおります。その活気的なことが出てきたときには、どうなんやということもあわせて、今後とも継続してやっていくことを、芦屋市でもよろしくお願ひしたいと思ひます。

これで決定ではないんやということで、今後とも最善を尽くして、住民と一体となつていい方向にやっていくということを、ぜひ行政のトップにも理解していただきたいなと思っておりますので、よろしくお願ひします。これは代替案も含めてです。

○利用者の会 長谷でございます。済みません、遅くなりまして。最後にだけ間に合いました。

この市がつけ加えられたとおっしゃってました、この地域、高層・中層・タウンハウス・戸建て、これは南芦屋浜の利用地域に対してもいえることで、これをつけ加えら

れた。それについて、やはり代替案考える場合、私個人の意見ですけど、やはり住宅形態によって、さまざまいろんな意見があることも認知していただければなと思います。

質問ですが、まず、2ページ目の4番目、まちづくり等の見直しがある場合というのは、具体的にどのような場合を想定されているのかが1つです。もう1つ、私は過去、自動車を専門に構造設計をしておりましたもので、今の現状の自動車学会などでも、よく報告されているんです。パッカー車ですが、実はハイブリッド車、電動車、既に導入されていまして、あえて環境への取り組みが、何も地域のごみ収集施設に加えてお書きになっているんですけど、これは必然的に、今後は環境の影響も考えまして、ほかの地域にも十分導入を検討されるべきものなんです。

ところがこの環境の取り組みで、あえて、ここで限定されている理由は一体どういうことなのか、お答えをいただきたいと思います。ここへ限定した理由です。本来はここに限定するまでもなく既に導入計画もされて、環境悪化を免れるというか、そういうやり方です。

最後、今、春木さんがおっしゃったように、これがスタートやということになると、今後はパイプラインの収集方法以外になると、代替収集の件については、話をするとき、収集をされている方とも話し合いをするべきだろうかと思います。現場がどうなっているかとか、どんな事故があるのか、どんなことが起こっているのか。まず、それを共有すべきだと思うので、それについての具体的なお考えをお尋ねしておきたい。

3点ですが、よろしくお願いします。

○市 芦屋市の藪田です。

今の長谷委員さんからの御質問、3つほどいただきました。その前に、春木さんから、今後もということでお話がありまして、実は12月15日の芦屋浜・南芦屋浜まちづくり調査特別委員会で、私どもから説明させてもらったときに、委員さんから同じような御質問がありました。そのときにお答えさせてもらった内容は、代替案もそうですけども、やはりマナーの向上でありますとか、さらなる維持管理費の削減をしていくためには住民の方の協力も必要ですし、一緒にやっていきたいということで、今、こういう形の協議会が継続できるかどうかは別として、「一緒に取り組んでいきたい」とお答えしました。

この協議会、お互い負担も大きいんじゃないかと思うので、できれば持続可能な組織をつくっていければ、もっとやりやすくなるんじゃないかとは思っているのですが、またその辺、調整させていただきたいなと思います。

長谷委員さんからの3つの質問ですが、まず1つ目、まちづくり等の見直しがある場合には、具体的にですが、そんなに具体的にというのは実はないです、今、現状で。20年、30年という非常に長いスパンの話をしておりますので、その間、何が起きるかわからないところを考慮しておるんです。今回、これで決まった場合、20年、30年も全くこの内容を動かさないととなりますと、ほかのことができなくなると困るので、今の現状でいったらこういう内容で行きますよという話ですけど、もっと大きな話が出てきた場合には柔軟に考えていきたいなと思うので、そのときは再検討できますよとしています。

2番目の電気自動車型のパッカー車の話です。導入されているところがあるということですけど、我々が調べた範囲では、現時点では、まだかなり課題も多いというのも聞かれます。導入されているところも少なからずあるんでしょうけれども、そんなにたくさんの自治体では持っていない。ハイブリッドとおっしゃっておられましたけど、走るのは車のエンジンで、後ろのパッカーの回転する部分は電気でというのは、そういう意味のハイブリッドは実際存在しています。

今、我々が考えていますのは、動くほうも全て電気でいきたいという思いで書いておまして、動くほうまで電気というのは、作っているメーカーさんもいるとは思いますが、電気自動車は、やっぱり課題はバッテリーでして。その課題がまだ多いので運用は少ないと聞いております。こういう課題もありますが、工夫次第では芦屋市に利用できないかなという検討をしていきたいと書いております。

最後、3つ目の質問で、代替収集の検討については、実際に収集している収集事業課も含めてという話でございます。この場には出席はしてないんですが、我々のほうで日ごろ調整しております。全然知らないとか、意見がある場合は我々もその意見を取り入れてやっております。今でも調整しながら進めてきております。この場に出席してほしいという要望があるのであれば、そのことは話しておきます。

以上でございます。

○利用者の会 僕が聞いたかったのは、あえてパッカー車なんかの入れかえを、この地域を限定しているような形でお書きになっていたのですが、変えるのか、だからそれを入れ

るんやというロジックじゃなくて、もともと芦屋市全体のCO2削減に有効だなと思うものですから、それをお考えになったらよかったんじゃないかなと思ったことが1つです。

それと、当然、協議されているのはわかってるんですが、今後、代替のいろんな、これからパイプラインを使わない方向になってくると、実際、現場の方たちが、どんなことがあるんだろうかもあんまり私たちは知らないなので、その辺の協議も、こういう場でやっていただいたらなと思いました。

最後、さっきおっしゃった審議会にこれを上申していくと聞いたんですが、その審議会の中にはこの地域のメンバーもいらっしゃるんですが、以前、お願いをしていたのは、その審議会の場で我々の意見といたしますか、説明、プレゼンテーションをしたいと、そういうことについても御検討いただきたいと大分前に申し上げたんです。そのことも、具体的にどうなっているのかを最後に聞いておきたいと思います。

廃棄物減量等審議会については、確かにこのメンバーが何名かはいらっしゃるんですが、大多数の方は利用者ではありません。具体的に中身について、こんなことなんだということの説明が要れば、当然、我々側が説明する機会があってもいいんじゃないかと思うので。委員さんたちに説明するときには、ぜひ、機会をいただきたいと思うので、お願いしたいと思います。

以上です。

○市 芦屋市の森田でございます。

利用者の会という組織として、そのような御要望があるということであれば、この審議会の会長さんに御相談させていただきます。これは市で勝手に決めるわけにはいきませんので、審議会そのものは会長さん初め、委員さんがその運営については判断されることですので、そういう御要望があることはお伝えをいたします。

○利用者の会 春木です、何度も済みません。

今もいろいろ出てたんですが、この中にも、まちづくりなどの見直しがある場合にはとか、電気自動車型とか、いろいろ検討を続けるというのが多くあります。僕が言いたかったのは、この辺はまだ不確定なところが非常にあります。だから、この辺は今後とも利用者の会、ワーキング、その辺の中でどんどん議論、話をやっていただきたいなど。何度も言いますけれども、技術的にとか、いろいろ民間で経験豊富な方もたくさんおられますので、やっぱりその中で、今後10年か15年かわかりませんが、議論

をしていって、お互いにその辺は共有して、課題解決に向けてやっていくということで、ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

先ほども長谷委員が言われたように、ワーキングの中では、代替案はそうですが、収集事業課の方の現状なり御意見なりとかいろいろ聞くこともありますし、場合によつたら焼却炉のほうも関係してくることもあると思います。その辺は、やっぱり今後ともワーキングを開催していただいて、その辺、技術的な課題解決に向けて、お互いにまたやっていっていただきたいと強く思っていますので、よろしくお願ひします。

○市 時間も過ぎてますけれども、7番その他で藪田から。

○市 その他のところで、芦屋市の藪田です。

先ほども説明いただきましたけれども、利用者の会の住民説明会、こちら少し落ちついてこられたようですし、市の考えとしましても、今、説明させてもらったところでもあります。そこでまず、今までも、今も話が挙がってましたけれども、昨年からは課題になってます、輸送管の現状とか補修の方法について、維持管理費の削減の検討の中で、ワーキンググループAを進めたいなと思ってるんです。

きょう、欠席者もある中で、日程調整は難しいと思いますけど。我々としては、例えば1月であれば、急に日程調整の話をして申しわけないですけども、うちの要望だけ言いますと、昼からですけども、1月であれば16日、18日、19日、22日、24日、25日。このあたりであれば午後から対応できるかなと思っておるんです。多分、時間的には14時からスタートで16時ぐらいを考えております。また、日程調整できれば、ワーキンググループAを進めていただきたいと考えております。

○傍聴者 済みません、もう一度、日にちのところと時間を。

○市 1月であれば16日、18日、19日、22日、24日、25日。時間的には14時から16時で考えております。内容的には輸送管の話をしていきたいなと思います。

そのほか、例えば代替案の話であったりとか、最初にありましたメールとか情報ボードの話も、グループBとかEとかあるんですが、あっちもこっちも全てスタートするのは難しいので、まずは何かからと考えますと、輸送管のほうを進めたいと思っておりますので、グループAを考えております。また日程調整、お願ひしたいと思います。

○傍聴者 潮見の野村でございます。

今のこれは、パイプラインの補修シールの話やと思うんです。それに関して私が窓口でやっておりますので、私と、初めから浅田さんと長谷さんと一緒にやっておりますか

ら、その辺の時間調整をしたいと思います。それに関して、今度、大日本プラスチックの、メーカーのほうもありますので、メーカーの出てくれる時間もあると思いますので、その調整をしたものを、皆さんの時間のとれるところで。大体、市はわかりましたので、調整させていただくと、そういうことでいいでしょうか。

○**利用者の会** 基本的には、それでいいと思います。ただ1つだけ。業者は今回、まだ呼ぶ段階じゃなくて、現状を整理したいんです。業者はある程度、こういう方向で、こうこうだから業者を呼ぼうという話なんで、その前の話なので、ちょっと確認したいところがいっぱいありまして。だから業者は、次の次、例えば2月に呼ぶとか、そういう形で。今回はおそらくいろんな方が、入りたいという方がおられるでしょうから、そこで集まって、顔合わせをしながら、じゃあ、こんなことで次呼ぼうとか、そういうことでよろしいですか。

○**傍聴者** 野村でございます。

それであれば、利用者の会が来週ありますので、そこでグループAの正確なメンバー、私もわからないものですから、後でそれは利用者の会のときに、もう1度、お話しただいて、18日だったと思いますので、それ以降、日にちを調整したいと思います。

○**利用者の会** そしたら、22、24、25、この3つの中から選ぶということですか。

○**市** ちなみに、前回、ワーキンググループAをしたときのメンバーは山口さん、大永さん、三宅さん、春木さんの4人でやったんです。別にメンバーは固定しているわけではないので、参加できる方はしていただいて構わないとなっておりますので、それはいいんです。

ただ、前回やった4人さんでいきますと、大永さんと三宅さんがきょう欠席されていることもありますので、また後日で結構なんで、日程調整の結果を教えてくださいなと思います。

○**利用者の会** 春木です。

私が思うのは、これからやることについては、コストダウンについても、環境についても、代替案についても、いろんな各方面の民間で長く経験をされて、十分な経験を持たれた方。これは予防保全やとか改善やとか、いっぱい経験しているわけです。ということはメーカーよりもより高いレベルやと。ある意味、そうなんです。使ってる側がその辺の改善、これまでやってきた予防保全やとか改善やとか、そういう技術をメーカーに言うのが非常に大事だと私は思ってます。

そういう経験を持たれた方もその中に入れていただいて、それぞれの方面の意見なり経験なりを踏まえて、意見を言っていただきたいと思いますし、当然、野村さんとか浅田さん、場合によっては電気計装やとか土木建築関係の人もいるかも知りませんので、その辺、今後、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そういうことから、今回の輸送管やったら、野村さん、浅田さんになると思ひます。よろしくお願ひしたい。

○市 議題8、今後の協議会のスケジュールで、次回は2月10日土曜日、同じ場所、同じ時間で考えておりますけれども、よろしいでしょうか。

(日程調整)

それでは、次回は2月10日土曜日です。

時間も超過してはありますが、第16会ゴミパイプライン協議会、これで終わらせていただきます。

○傍聴者 潮見の香川でございます。済みません、時間も超過しているんですけど。

きょうの話の中で確認したいことが1点だけあります。冒頭で、業務委託契約の話が3月までという話をちらっと聞いたんです。その辺の確認だけ。

もし、今回のいろいろな施策を、いろんな試みをしているんですけども。それを盛り込むのか盛り込まないかという話だったかと思うんです。3月というのは今年の3月ですか、業務委託契約が。

○市 はい。

○傍聴者 ということは、もう間に合わないですね。中身の見直しは。それと、業務委託契約は単年度契約か3年契約とか、いろいろあると思ひますが、それも教えてもらえますか。

○市 単年度契約になります。

○利用者の会 コストダウンをさらにやろうと思ったら、それまでに案を固めてと。今度は来年の2月頃までにということですね。

○市 来年、そうですね。

○利用者の会 新たなコストダウンもあると思うので。

○市 そうですね。また話しましょう。それでは、終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

以上